

発掘成果をふりかえって 1994

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

平安建都 1200 年を迎えた京都では、さまざまな記念行事が催されてきました。こうしたなかで遺跡の発掘調査は、過去に行なわれたものも含めて多くの注目を集め、この 1 年だけを見ても、それに応えるがごとく多大な成果を挙げています。

なかでも、大極殿基壇だいごくでんきだんや朝堂院基壇あさどういんきだん、内裏内郭回廊だいりないかくかいろうといった平安宮の遺構が相次いで見つかったこ

とは、まさにこの記念すべき年にふさわしい発見であったといえるかも知れません。

今回はこれらの調査成果を写真で振り返ってみたいと思います。紹介するのはごく一部ですが、建都以前も含めて各時代の「京都」を垣間かいまみることのできるようなものを選びました。あらためて京都の歴史の重みを感じていただけることでしょう。



1 中臣遺跡 山科区栗栖野中臣町
縄文時代晩期の埋甕(墓)。



2 平安京右京五条四坊(西京極遺跡) 右京区西院月双町
弥生時代後半の住居跡と、その後造られた方形周溝墓(東から)。



3 平安京右京八条二坊 下京区西七条石井町(七条小学校)
水や穢れ・病の侵入を防ぐために祀られた齋串と和銅開珎(平安時代初頭)。



4 平安宮内裏跡 上京区下立売通千本東入田中町
造當時の内裏内郭回廊、基壇と雨落溝(北東から)。



5 平安宮朝堂院跡 上京区竹屋町通千本東入主税町
朝堂院東面、宣政門の階段の一部(北東から)。



6 白河街区跡 左京区聖護院^{えんとみ}岡頓美町

尊勝寺の北に位置する大きな建物を造る基礎工事（地業）の石敷き（北から）。



8 平安京左京八条三坊 下京区東塩小路町（JR 京都駅構内）

写真右 調査地中央の白い部分が室町小路、小路をはさんで中世の町屋が展開している（北西から）。

写真上 磬の鋳型出土状況。町屋の中に銅細工の工房があり炉床に磬の鋳型を転用している。



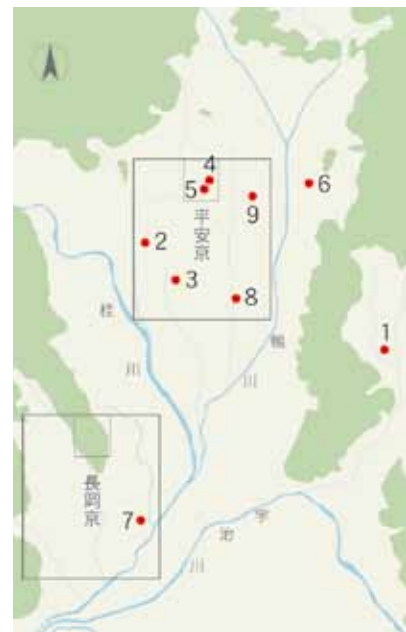
7 水垂遺跡 伏見区淀水垂町^{みずたれ}・樋爪町^{ひづめ}

室町時代の園池跡。池の汀には景石が配され、手前には木樋が見える（東から）。



9 平安京左京二条四坊跡 中京区柳馬場竹屋町下る五丁目（御所南小学校）

江戸時代中期の町屋跡、礎石建物、蔵、背割り溝などの遺構から当時の町屋割りがよくわかる（南西から）。



調査地点